



# 全年齢 0歳～成人 ワクチン接種スケジュール



2021年11月版

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
B型肝炎	①-②の間は4週、①-③の間はそれぞれ20-24週あける	定期：0歳で3回接種。 1歳以上でも未接種の場合は、早めに接種することを推奨
	①生直後 ②生後1か月 ③生後6か月	HBs抗原陽性の母親から生まれたHBs抗原陰性の乳児（健康保険適用）
ロタウイルス	生後6週以降、①は8週-15週未満を推奨（遅くとも生後14週6日までに開始）	定期：1価ワクチン 生後6週から6か月(24週)までに完了する
	・1価ワクチン：①-②は4週以上あける ・5価ワクチン：①-②-③は4週以上あける	定期：5価ワクチン 生後6週から8か月(32週)までに完了する
ヒブ (インフルエンザ菌b型)	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27日以上、③-④の間は7か月以上あける。①-③までを12か月までに終了する。 ・初回接種が生後7か月-11か月：①、②の後は7か月以上あけて③ ・初回接種が1歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月以上から5歳の誕生日まで
肺炎球菌 (PCV13)	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27日以上あける、③-④の間は60日以上あけて、1歳から1歳3か月で④を接種 ・初回接種が生後7か月-11か月：①、②の接種後60日以上あけて1歳以降に③ ・初回接種が1歳-生後23か月： ①、②を60日以上あける ・初回接種が2歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月以上から5歳の誕生日まで 任意：高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高い者
肺炎球菌 (PPSV23)	定期： 2023年度末までは65歳以降100歳まで5年ごと。(参照:おとなのワクチン)	任意：2歳以上 対象者：(1)脾臓摘出した人の肺炎球菌予防(健康保険適用) (2)鎌状赤血球症、脾機能不全、心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏等の基礎疾患のある人、免疫抑制剤治療予定者(治療開始まで14日以上の上の余裕のある場合)
四種混合 (DPT-IPV: ジフテリア・百日咳・ 破傷風・ポリオ) 二種混合 (DT:ジフテリア・破傷風) 三種混合 (DPT:ジフテリア・ 百日咳・破傷風) ポリオ (IPV)	①-②-③の間はそれぞれ20-56日あける ③-④の間は6か月以上あける (標準は③終了後12-18か月の間)  11-13歳未満 二種混合 二種混合の代わりに三種混合ワクチンを接種可 (百日咳予防目的)	定期： 1期：生後3か月-7歳半の前日まで (四種混合・三種混合・ポリオ) 2期：11歳-13歳の誕生日前日まで (二種混合)  任意(推奨)： ・5歳から7歳未満 三種混合ワクチンを追加接種(百日咳予防目的) 不活化ポリオワクチンを追加接種(ポリオ予防目的) ・不活化ポリオワクチン：ポリオ流行地へ行くひと
破傷風 トキソイド	・1回目のあと3-8週後に2回目、1回目の12-18か月後に3回目 ・10年ごとに1回接種	対象者：・1967年以前の生まれ ・過去に3回の接種歴がないひと ・3回接種歴があるひとは10年ごとに1回接種
BCG		定期：12か月未満 標準的には、生後5か月から8か月

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
MR (麻しん・風しん混合)	①：1歳から2歳の誕生日の前日まで ②：5歳から7歳未満 (小学校入学前の1年間)	定期：①1歳、②年長児相当 風しん第5期： 1962年4月2日から1979年4月1日生まれの男性(2022年度末まで) 任意：1歳以降全年齢接種可能 麻疹曝露後や流行地域では、生後6か月以降で接種可能。 その場合は接種回数には数えず、①、②は規定通り接種する
おたふくかぜ	①：1歳以降 早期に ②：5歳-7歳未満(小学校入学前の1年間) ①から4週間あければ接種可能	任意：1歳以降全年齢接種可能
水痘 (水痘・带状疱疹)	1歳～13歳未満： ①：1歳以降 早期に ②：1回目から3か月以上あける 13歳以上：①-②の間は4週間以上あける	定期：1歳から3歳の誕生日前日まで 任意：1歳以降全年齢接種可能
带状疱疹	1回目-2回目の間は2か月-6か月あける	任意：50歳以上
日本脳炎	①-②の間は6日以上(-28日)あける ②-③の間は6か月以上あける ④：9歳-13歳未満  参照 <a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/annai.html">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/annai.html</a>	定期：1期：3歳から7歳6か月 (自治体によっては生後6か月から開始) 2期：9歳以上13歳未満 任意：生後6か月以降全年齢接種可能  2005年5月からの積極的勧奨の差し控えを受け、特定対象者(1995年4月2日から2007年4月1日生まれのひと)は、20歳の誕生日前日までは定期接種可能。2007年4月2日から2009年10月1日生まれのひとは生後6か月-7歳半の前日までと9歳-13歳の誕生日までに第1期の接種可能
インフルエンザ	13歳未満：1回目-2回目の間は4週(2-4週)あける	任意：生後6か月以上の全年齢 定期：65歳以上(成人のスケジュール参照)
HPV (ヒトパピローマ ウイルス)	2価ワクチン	
	①-②の間は1か月あける ①-③の間は6か月あける	定期：小学校6年から高校1年女子 任意：10歳以上の女子 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける
20歳以上の方の 接種は、医療機関に ご相談ください	4価・9価ワクチン	
	①-②の間は2か月あける ①-③の間は6か月あける	定期(4価)：小学校6年から高校1年女子 任意(4価)：9歳以上の男女 任意(9価)：9歳以上の女子 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける
髄膜炎菌 (4価)	対象者：2歳以上 (1)髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航するひと (2)学校の寮などで集団生活を送るひと、送る予定のひと	(3)大勢の人の集まるところに行く予定のひと (ユースのキャンプ、コンサート、スポーツ観戦など) (4)ハイリスク患者(HIV感染症、補体欠損症、無脾症、ソリリス治療患者など)
A型肝炎	1回目-2回目の間は2-4週あける 1回目-3回目の間は20-24週あける	任意：全年齢接種可能(WHOは1歳以上を推奨) 対象者：A型肝炎流行地へ渡航するひと